

令和6年度第1回松戸市立博物館協議会 会議録

|           |   |
|-----------|---|
| 日 時       | 令和6年7月27日（土）14時～15時30分  |
| 場 所       | 松戸市立博物館 実習室   |
| 出席者       | <p>（委員）</p> <p>会 長 小島 孝夫<br/>         委 員 藤崎 裕二<br/>         委 員 大西 一樹<br/>         委 員 谷鹿 栄一<br/>         委 員 岡田 啓時<br/>         委 員 頓田 絵里子</p> <p>（事務局）</p> <p>教育長 波田 寿一<br/>         生涯学習部長 井之浦 太郎<br/>         博物館館長 渡辺 尚志<br/>         文化財保存活用課職員（博物館） 12名</p> |
| 議 題       | <p>1. 松戸市立博物館展示リニューアル懇談会・展示リニューアル検討会の報告について</p> <p>2. 館蔵資料展「古文書からさぐる大谷口の村」について</p>  |
| 公開<br>非公開 | 公開（傍聴者0人）   |
| 配布資料      | 「松戸市立博物館展示リニューアル懇談会・展示リニューアル検討会の報告について」資料   |

事務局 議事に入る前にご報告を申し上げます。松戸市立博物館管理運営規則第14条第2項の規程により、本会議の成立は、委員の過半数の出席が必要とされており、本日は6名のご出席をいただいておりますので、本会議は成立となります。

会長 傍聴希望者はいませんので、このまま議事に沿って進めて参ります。歴史資料所在調査の進捗についてご説明お願いいたします。

1. 「松戸市立博物館展示リニューアル懇談会・展示リニューアル検討会の報告について」

～資料に基づき事務局から説明した～

会長 委員の皆様からご質問やご意見を願う前に1点確認です。博物館リニューアル実施設計業務委託から展示リニューアル懇談会、そして展示リニューアル検討会の経緯についてもご説明いただきました。実施設計業務委託では、それらの助言や検討事項を踏まえて、具体的な展示構成案を受託事業者が作成し原案を作っていたかどうかという流れでよろしかったでしょうか。

事務局 はい。

会長 展示リニューアル検討会では、展示リニューアルの内容について具体的な議論を行う、いわば博物館の中での展示内容の実施設計を行う会議となります。現段階では展示内容には、協議会としても踏み込めませんので審議事項ではなくて報告事項として挙げてあるのは、そういった事情がございます。ただ、色々な立場から博物館の活動についてご指導いただく場がこの協議会でございますので、ご意見ご質問をいただいて今後の博物館の展示リニューアル計画の方に反映させていただきたいと思っております。もう1点確認なのですが、先程ご説明いただいた内容に対して委員より意見の聴取なり、意見をいただくということですが、プロポーザルの原案との兼ね合いというのは、次にこの協議会がどう関わることになりますか。私たちはもう意見や感想を言いつ放しで、ただそれだけでいいということでしょうか。

事務局 検討状況等を逐次進捗状況をご報告させていただく予定です。時期については、年度末や計画策定書が出来てきた或いはできた段階で報告いたします。来年度であれば実施設計の結果を、または途中で進捗状況を報告する形となります。

会長 今年度のスケジュールですと、今年度末頃プロポーザルで選定された展示事業者から原案が出てきてその段階で私たちもその内容を検討できる、或いは確認できるということでしょうか。

事務局 展示事業者が作成する計画には、細かな部分で学術的意見が含まれま

せんで、その点に関してやはり読み直しになるかと思われま。その為年度末ではなく途中でご提示できればと考えております。

**会長** 本日の資料で意見や質問というのが、進行としていかなものかと危惧があったため、冒頭で少し整理させていただきました。こどもミュージアムについては、事前に詳細な報告書をお送りいただいておりますし、展示リニューアルについては、総合展示室と主題展示室を改修するとのことで説明いただいております。本日提示している資料が、歴史・民俗・考古すべての分野にかかわるものではないですけれども、ご提示した資料の範囲で質問や意見ございましたら、よろしく願いいたします。事務局のほうで補足説明ありますか。

**事務局** 展示リニューアルの内容について議論するのは、博物館職員と外部の研究者の方々、展示事業者の3者ではなく、子どもの意見も収集し反映させる予定です。プロポーザルに参加した事業者はいずれもお子さんの意見をどのように収集するか方法を考えていらっしゃいましたので、子どもたちの意見を聞き取ると思われま。

**会長** ありがとうございます。どうしても抽象的なことでご検討いただくことになるのですか。意見質問はありますか。

**委員** 展示事業者の役割が非常に大きくなってくるわけでしょうけど。こどもミュージアムと総合展示リニューアルは同じ事業者さんですか。

**事務局** 同じです。

**委員** 業者選定が進んでいるということですね。

**事務局** 只今プロポーザルを実施しております。事業者がどこになるのかお答えできませんが、委託内容としては計画の策定です。今年度展示事業者が作成した計画をもって来年度設計という形でさらに細かい内容を詰めていきますので、同じ展示事業者がこどもミュージアムと総合展示を設計したほうが進めやすいという考えで、同一展示事業者としています。

**委員** 資料を拝見すると、総合展示室リニューアルの具体的な内容が出てきたので少し分かりやすくなってきたのではないかと思います。

**会長** 総合展示室の展示計画については、基本的には通史展示のままということでしょうか。

**事務局** はい。通史展示というか時系列での展示になる予定です。

**会長** そうすると、民俗学ってすごくやりにくいんですね。もともと展示空間が限定されますし、そこで通史展示且つ民俗学の常盤平団地という大きな展示がありますので空間とバランスが限られ展示事業者もいろいろ工夫をして原案つくっていただけたらと思いますけども、他にいかがでしょうか。

**事務局** 資料Ⅱ⑤こちらはプロポーザルの事業者に提示した資料ですが、現在

主題展示室は仮設壁に区切られて4つの空間がございます。リニューアル後も現在ある4つの主題展示室の区画は維持する予定です。その空間にそれぞれ何を展示するかについてですが、歴史学と考古学、民俗学それぞれ1部屋ずつ設けて多目的の部屋を1部屋設ける予定です。それぞれの部屋が可変性をもち、インクルーシブな視点から展示空間を構成します。特に多目的の部屋については2年ほど前から協議会でもご指摘いただきましたように、何度来ても楽しめるような可変的な空間であるということ。それからプレ企画展示といいますか、今度こういう展示を大々的に1階の企画展示室でやりますよということを事前にご紹介できるような展示室といいますか。それから、結果的に総合展示室からはみ出ちゃう資料もありますので、それらを順次公開するようなそういうような使い方をしたいと考えております。

**会長** そうしますと総合展示が時系列の通史展示になっていて、主題展示室は分野ごとの展示も。

**事務局** 分野ごとに可変性をもたせ、多目的室もつくる予定です。

**会長** 例えば、民俗展示に興味を持った人がそこでいろんな検索ができるとか、関連した資料をそこから検索できる、現在引き出し型の展示を増えてきていますが、そういったことなどもこの分野ごとに分けるということで、そういった可能性も出てきますか。

**事務局** 総合展示室よりやりやすくなると思います。ただこどもミュージアムもございますので、引き出し型についてはそちらでもあるかもしれません。

**会長** なるほど。そのほか質問ありますか。

**委員** 懇談会や検討会があって、その中で助言または議論されたことが資料に記載されているのかと思いますが、その場にはないので置き去りにされている感じがします。総合展示室がこのような形でというイメージは何となく分かりますが、我々私ども教員が博物館に関わっているという意図としても見開きの②番のところですね、「多岐に亘る調査を背景とした」というところの4行目の「歴史・文化と人類史・列島史との接点及び学校教育との接続を意識し」についてですが、学校教育との接続を意識というのはどういう議論がなされて、具体的なものになっているのかお伺いしたいです。

**事務局** 当館の学習支援専門員から話を聞いたり、学校教育の素人である私たちにとって現場で学ぶことが大事だと感じています。お子さんたちとの触れ合い中で、この学年だとどこまで理解ができるのか、何に対して興味をもっているのか、現場で学んでいる最中です。3年生であれば近代の総合展示室のなかで土地利用の変化を5分かけて説明して理解できるのだろうか、などそのレベルのことを蓄積している段階です。

**委員** ありがとうございます。我々も何か一助になるように取り組みたいと思

います。

**会長**段階的に協議会の場でも資料を提示していきます。

**委員**資料を提示して教えていただいでできるものがあれば我々の勉強になります。

**会長**昨年度の流れとしますと、この協議会で松戸市立博物館が開館してから時間が経っていて、その間に各分野でいろんな研究動向がありましたので、そういったものがどのように展示リニューアルに反映できるかを懇談会での内容とあわせて検討会で議論してきました。それが実質的に、展示としてどう活かせるか作れるかというところは内部で検討していただくということで、昨年1年間が終わりました。1年間検討した内容を基にして、プロの展示業者に、具体的に私たちが視覚的にも確認できるような形で原案提示をしていただく業者を選定している段階ですので、私たちもはっきりまだ何もわからないのですよね。ただ、博物館の運営にとって今が一番大事な場ですので、段階段階で資料を提示していただいで、意見をそこにまた反映させていただくということで進めていくことになるのだらうと思います。

**委員**ありがとうございます。

**会長**では続けて、館蔵資料展「古文書からさぐる大谷口の村」について事務局からご説明をお願いいたします。

## 2. 館蔵資料展「古文書からさぐる大谷口の村」について ～内覧と意見交換を実施した～

**会長**見学途中の皆さんもいらっしゃいましたが、私の方で無理に声をかけさせていただきました。申し訳ありません。大変充実した展示で、図録が欲しいなって館長さんも思いましたけど、無理でしょうか。なかなかこれだけの資料の展示ってないですよ。図録あったらいいですね。民俗学の年行事事についての資料は本当に貴重だと思います。

では、短い時間の観覧とはなりましたが、展示の感想や意見等ございませうでしょうか。

**委員**作り込まれた展示で解像度の高い情報をいただいで本当によかったです。情報が細かければ細かいほど感情移入がしやすく、子どもでも分かりやすいのかなと思うのですが、やはり少し子どもには難しいのかなと思いました。大人にとってはすごく楽しい展示でした。

**会長**ありがとうございます。ほかにいかがですか。

**委員**文書資料というとなかなか好きな人は好きですが、わからないときはすごくわかりにくい部分が多々あるかと思うのですが、資料1つ1つに解説が

あって、文書の細かい部分が読めなくても解説読めば意味がわかるということがすごくよかったなあと思いました。また、非常に興味をそそられるような内容で書かれていたので、良かったです。ただ、一部資料の奥に解説パネルが設置されていて、資料とパネルに距離感があって非常に読みにくかったので、遠近じゃないですけどもう少しパネルの級数が大きくてもいいのかなと思いました。

**委員** 子どもの視点で見ていたのですが、豊富な資料で解説がついていて大人にとってわかりやすい。また、子どもにとっても興味のある所はあるかなと思いました。例えば村の生活はどうだったのか資料を読めばわかる部分があって、それが1つのきっかけとなって歴史に興味を持ったり地域の文化に興味を持ったりするのかなと思いました。子どもたちがワークシートに挑戦して間違ったりすると、ちょっと心が引かれるものがあるって、展示されている資料の中身は少し難しい部分もあると思うのですが、古文書を読みたい、また行ってみたいと思うような何かそういう少し、小学生にも分かりやすくなるような資料を少し展示していただければありがたいと思いました。

**委員** 解説を読むのは勿論ですが、学芸員や館長と話しながら展示を観覧するのも楽しかったです。資料の中に田んぼの中にため池を作る代わりに年貢安くしてくれ、というお願いを百姓が役人に頼む記述がありましたが、現在だったら公共事業は、政府、地方自治体がやるものです。江戸時代の村人は、自治の意識があって現代人よりエネルギーがあったのではないかなと想像ができて、そのエネルギーを小学生も感じることはできるのではないかなと思いました。物や情報溢れる社会で小学校でも中学校でも、写真でも文書でもその資料をどう活用していくかが大事だと感じました。

**委員** 博物館と市民の距離感といいますか、市民と博物館がどこで結びついてどこで接点があって輪になっていくのかといつも疑問に思うのですが、今回の展示は非常に市民と接点がある展示だったと思います。これは松戸だよ、松戸だなと市民に思ってもらえる展示だなと思いました。市民が自分の故郷にこんな資料がある、わが故郷を理解していただけるといい経験になると思い嬉しく感じました。

**会長** ありがとうございます。今回の展示内容を高校の日本史の教科書と照らし合わせると1ページで終わってしまうような内容です。ただ、民俗学をやっている立場から見ても、近世村とか藩政村という言い方のかつての村の姿を前提にして民俗調査を行うことがあるのですが、今回の展示は詳細な記録が残っていてとてもいい展示ですよ。なんとか図録つくれないでしょうか。博物館としても大事な財産になる展示だと思います。また、議事1でご報告のあった主題展示室多目的室の活用方法について、期限を設定して行う展示

の蓄積を、またそこで確認していくような役割を担えば、博物館の毎回の展示っていうのがずっと蓄積もできていく。今回の展示が会期終わっておしまいはなくて、博物館として館長様のご尽力もあったと思いますので、ぜひ何かしらの形で公開していただけるとありがたいと思います。主題展示室についての考え方も、今回の展示のような毎回の内容、成果っていうのを確認していくインデックスとして拾っていきけるような工夫もしていただけるといいなと思いました。

日本史の教科書ですと 1 ページもないような内容のところですが、「名主は辛いよ」ってフレーズがいいですね。お子さんたちの接点とか導入の部分って難しさもあると思うんですけども。ぜひ博物館としての研究成果としてなんらかの形で公開をして、個人の研究成果としても発表されると思いますが、博物館の研究発表として公開をしていただけたらありがたいなと思いました。

議事はすべて終わりましたので、事務局にお返しします。

**事務局** それでは、次に渡辺館長よりご挨拶申し上げます。

【渡辺館長 挨拶】

**事務局** 最後に、事務局から連絡事項がございます。次回の協議会は、令和 6 年 11 月頃に開催を予定しております。改めてご案内をいたします。本日は長時間にわたってご審議いただき、ありがとうございました。これをもちまして令和 6 年度第 1 回松戸市立博物館協議会を終了いたします。